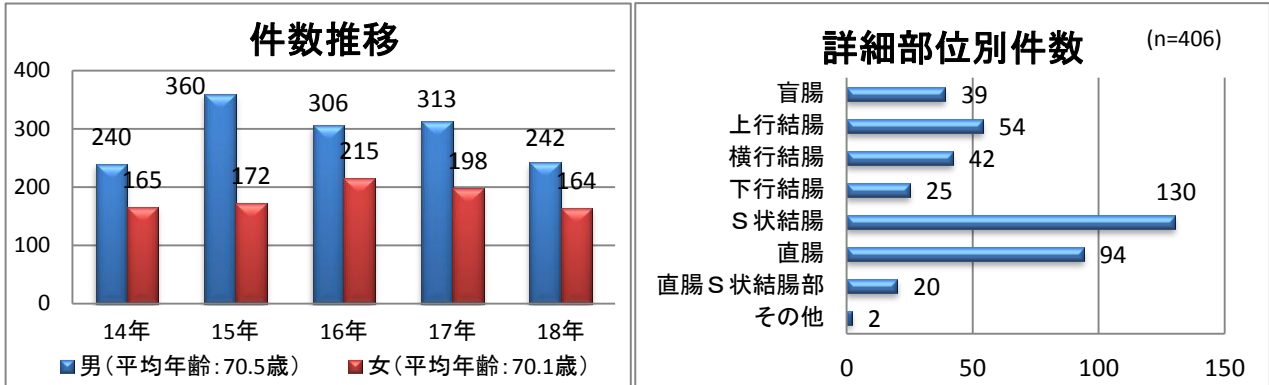
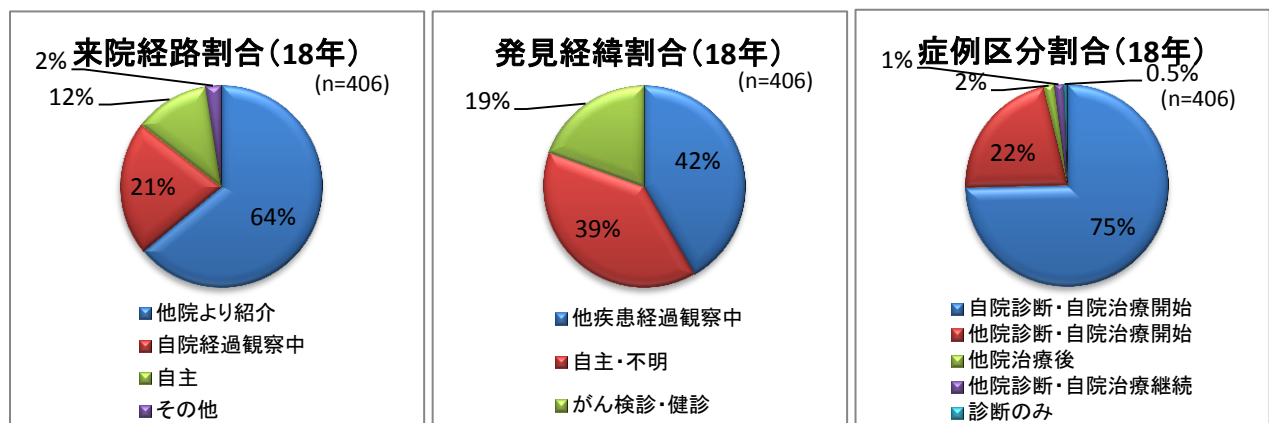


Ⅱ. 2018年集計＜部位別＞

1. 大腸



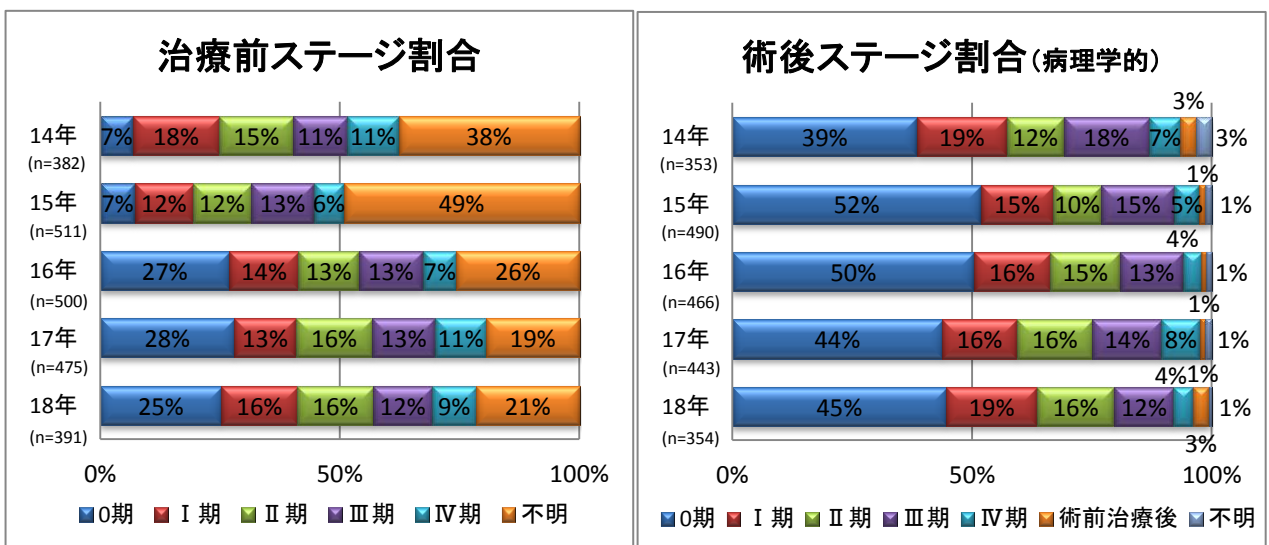
件数推移は男女共に件数が減少している。詳細部位別では「S状結腸」の件数が最も多い。



来院経路割合は「他院より紹介」の割合が約6割を占めている。

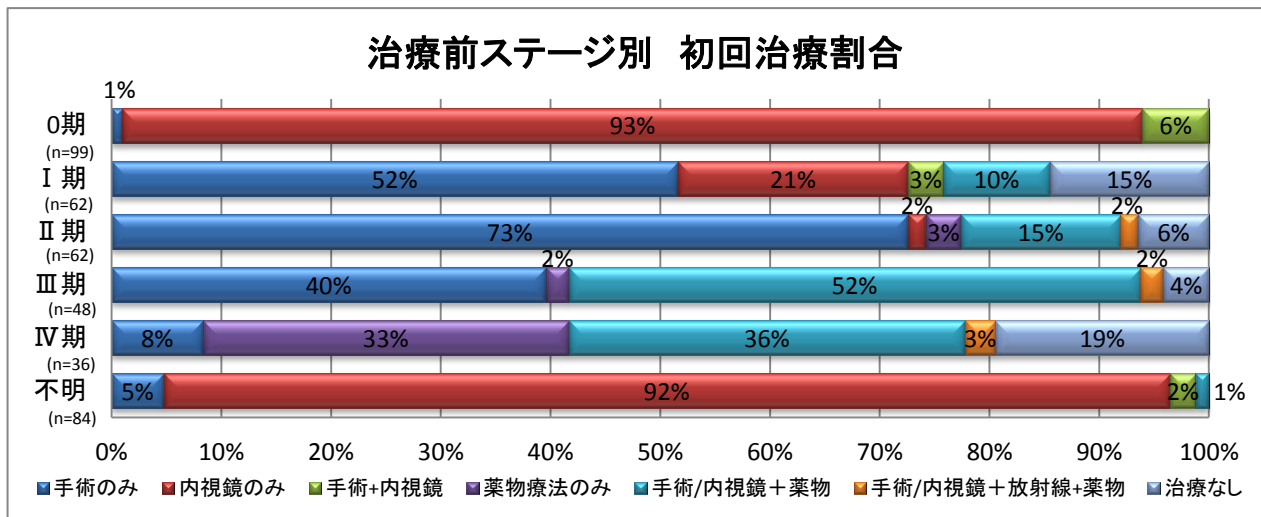
発見経緯割合は「他疾患経過観察中」と「自主・不明」の割合が高い。

症例区分割合は「自院診断・自院治療開始」の割合が高く約8割を占めている。



治療前ステージは16年以降「0期」の割合が増加しており、これは16年よりがん登録のルールが変更となり、ステージの登録が可能となった症例が増加したためと考えられる。術後ステージは「I期」の割合が増加している。

※「術前治療後」は、術前に化学療法や内分泌療法で病変を小さくしてから手術する症例が含まれる。



0期では「内視鏡のみ」の治療が約9割を占めている。I期とII期は「手術のみ」、III期は「手術/内視鏡+薬物」、IV期は「薬物療法のみ」と「手術/内視鏡+薬物」の治療の割合が多い。